

414
A 170



上言

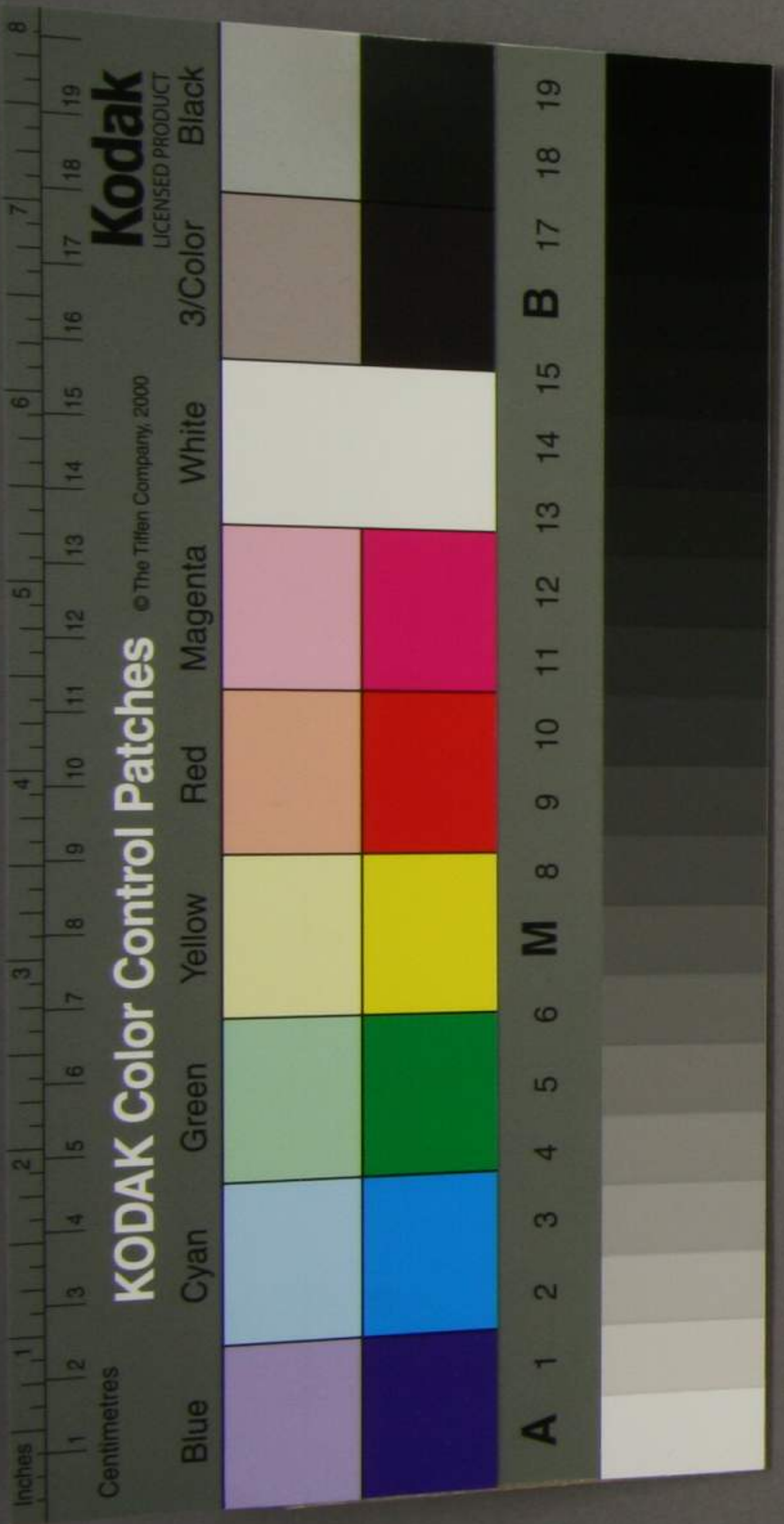
台湾蕃地御處分之儀ニ付辦理大臣清國派遣
被仰出候次第ニ付地方官會議延期之儀内
達旨今朝拝見私共愚存之趣不取敢上申仕候

第一條

廟堂即今之御急務者御誓文之聖旨を擴充在セ
りて治乱常変となす法令禁制此族より処施設運歩
之際輿論ニ基キ公議を悉ク上下協和之實を確定
せられ官省院使府縣之官負を以て深々朝意を
体認一各其主任を盡さしめらる度事

蕃地事務局

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄



第一條

第一條 聖旨を擴充し公議を悉し廟議確定之
上ハ速ニ支那御談判廟議ニ大旨を明諭し上廟堂
より各省院使府縣ニ依段ニ應し全國人民之智識
財カラ量リ目今軍國権宜ニ措置を定め臣ボラテ
管下數十万人之心を一ニ徐ニ廟堂此大旨ヲ奉
待り此御所置有之度事

第二條

即今上下士官招募ニ官負派出之處多ク士族を
募らざるを得ず此勢何レ此士族也支那各灣ニ

事件如何を知り況んや平民ニおめて國憂を共

ニする此根元何物多クや焉んをみれを知るを得ん此際

ニあり法令繁苛且變更有之士民頗る矢意之情

体あり仍る胸襟を開いて不得止之情体を廣く人民

ニ細諭し振る御國難を擔ひ百險不當リ不撓之意氣

ニ至るむる極ニ仕向度就ハ即令如何ニ御廟議ニ

被為在候哉奉伺度候事

第四條

軍國萬機中第一ニ憂々御一新來百事振興
用度多端ニ未佐賀ニ一舉ヨリ尙罪出師ニ至迄其

費に處額數を與り知るはと以て之を臆弄そ
る小五百萬圓下下なる一、今支那と交戦せん
ハち日と萬金ヲ費すんハ數萬比兵士ヲ海底山岳
沈轉ヤ之と必然ある此巨萬の金員目下此
措置持久の策之を内地に募り外國に債を兩
りく大困難なるはや廟堂將來國を立民を護り
以て軍國に處する此會計御成算不應一管下
人民上、關係を以て要件に付豫め御目的相
同置度候事

第五條

新築土木費用の同等を即今御差延に相成候目下
破段修繕の經費伺と殊別の御處分事之候は
田園保護五穀收穫資租收入の道難相互候間地方官
實際取調上申の趣御採用相成度候事

第六條

外を務るは内を齊るを以緊要と以今軍國此
政を布りやらむ上と不急の冗費を省く無偏と雜毛
三民の本業を勤め便益を商する要務と殊に是を
奨励せしむ財用生るを以て仍てこれ措置
制限を確定在り候事

第七條

全國各地の人心穩静ならざるの際外事起まり
各地取締方今緊要の急務を以て實地の景況
申上御見込等奉伺置及候事

右件、公議小辨り此聖旨の基に於て全國實際
人情俾政を酌量し速に御決定平常治民上
の儀に支那の一義定る迄一切回貫小倚りし
勅令を要し官省院使府縣各簿書記録不急の
雜務悉皆取置本業を勉の学文を専らし
所係を嚴し一臣等も一管下人心を可一言察

施済の目的相違區々の微力を盡し以て御國難の
一部分を擔當仕度愚衷奉陳述候條願儀の
御懇諭を蒙り度奉懇願候誠恐拜具

明治七年八月十八日

宮崎縣権左事上村行徴

豊岡縣左事田中光儀

水澤縣権左増田繁幸

鳥取縣権左三吉周亮

小田縣権左天野光儀

大分縣権左森下景瑞

福島縣令 安場保和

右政大臣三條實美殿